

加根議員、中川議員が聞く

# 東広島の “ものづくり”

表紙写真／話をお聞きした皆さん

今回は、「東広島のものづくり」をテーマに、転倒予防靴下などの介護製品の製造を手掛け、地域産業の発展にご尽力されている、株式会社コーポレーションパールスター様にお伺いして、ものづくり産業の課題や展望についてインタビューしました。

## プロフィール



(株)コーポレーションパールスター  
代表取締役  
新宅 光男さん



工場長  
森尾 清勝さん

# 「介護予防は美容と健康から」 着眼点を変えたものづくり!!

**Q** 御社についてお聞かせください。

**新宅** 大正4年に江田島市で創業、安芸津町にきたのは昭和16年です。社内一貫生産で、当時は軍足、現在は機能靴下を製造しています。特に昨年度は医療

機器の製造業と製造販売業の認可を、6年がかりで取得しました。本社機能のある医療機器の製造業と製造販売業は、当社が

東広島市第1号です。

**Q** 介護製品を作るようになった経緯をお聞かせください。

**新宅** 平成14年に糖尿病の患者さんが来られ、とにかく足が冷えてどうにもならないので、温かい靴下を分けてくれと言われてました。そこで、絶対的に自信を持っていた商品をすすめましたが、「夕方になると冷える。

本当に温かい靴下を作ってくれ。」と言われ、ショックでした。この人に温かいと言ってもらえる靴下を作りたいと思ったことがきっかけです。

**Q** 介護製品を作る上での課題をお聞かせください。

**新宅** 介護予防の市場はだんだん大きくなっており、誰もがやらねばならない分野であることは分かっているのですが、介護予防は自分の年齢ではまだ早いと思う方が多いのが現状で、戦



- ①：コンピュータ化前の靴下専用織機
- ②：コンピュータ化した靴下専用織機
- ③：新宅社長による説明
- ④：インタビューを受ける新宅社長
- ⑤：病院との連携による転倒予防靴下の開発風景

略を変えていかないとダメなんです。行政もその辺は、本当に改革意識を持ってもらいたい。今のままではシルバーコーナーを設けても1年以内に閉店してしまいます。どんなに有名な方が素晴らしいと絶賛しても、売れるのは母の日や父の日、また敬老の日のプレゼントくらいです。戦略を練って取り組まない限り良い商品であっても売れないということに気付かされました。

**Q** 今後、介護製品をさらに広めるために何をすべきかお聞かせください。

**新宅** テーマは、「介護予防は美容と健康から」。ここに着眼点を変えていかないといけないということです。そのヒントを貰ったのが、姿勢改善です。姿勢が良くなるとつまずき対策にもつながり、若返って見える効果もあります。介護予防は老人扱いではダメなんです。結果的には同じことかもしれませんが、使用者の方が気持ちよく使って

くれるものを作るという事が大切であると思います。

**Q** 工場の概要についてお聞かせください。

**森尾** この工場では、糸から一貫生産を行っています。旧式の設備から最新鋭の設備を備えており、お客様の要望に応え生産を行っています。特に品質ですが、金属片などの異物混入は絶対あってはならないことから、最新鋭の検知マシーンを導入して検査しています。

**Q** 最後に一言、行政への提言等があればお聞かせください。

**新宅** 広報活動について言えば、「介護予防」ではなく、「美容と健康」をキーワードに発信してもらえば、東広島市が本来の意味での介護予防の先進地になると思います。また、アピールも大切ですが、大阪のバリアフリー展や国際福祉機器展などへ、行政指導でブースへの積極的参加をお願いしたいです。